

植物と向き合い 1400枚

11月3日まで開催したカフェギャラ
リーチムチム2階の個展会場にて

Profile さとう・あつこ

昭和45年7月29日生まれ。創形美術学校でグラフィックデザインを専攻。都内や大阪、広島、高松でイラストレーターや情報誌デザイナーとして経験を積む。平成20年に菊池に戻り、定期的に個展を開催。平成28年に日本ブックデザイン賞特別賞受賞。雪野区でAtelier Clip(アトリエクリップ)を主宰する。49歳。

四季折々の花や野菜に山野草。平成27年から植物画を中心に自然風景を描いた「一日一枚絵」を毎日フェイスブックに載せ、その数は1400枚を越えた。「植物の魅力だけではなく、日々の気候や風土自体も記録するようにしている。絵に表現することで、ストレスも浄化されます」。今では多くの人が鑑賞。日々届く反応に「自分も励まされる。続けていく活力になります」。幼少期から絵や自然が大好き。龍門小学校で3つの運動部をかけたもちしたが「興味の対象はスポーツより自然。わざと草むらにボールを投げ、探すふりをしながら植物を見ていた」と笑う。菊池高校で美術部に所属。上京して専門学校で勉強後、イラストレーターや情報誌のデザイナーとして活動した。その後帰郷し、現在は絵やデザインの仕事を請け負う。「身近に四季を感じながら絵を描ける菊池は最高です」。近年の関心は環境や食が中心で、描く山野草の効能を調べている。「菊池に戻るまで植物はインテリアのような認識でした。でも、食材として見ることで、より身近になって」。病氣や熊本地震が重なった時期には「新しいことをして気持ちを立て直そう」と銅版画にも挑戦。絵より作業が細かく時間もかかる工程に「より自身の内面と対話できる。表現の幅が広がり、引き出しが増えました」と話す。

今日も描く一日一枚絵。「植物を通して見る日常を記録し続け、世界の移り変わりを見届けたいです」

「菊池人」 希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人など、菊池で頑張っている人を募集します。本市在住であれば自薦・他薦は問いません。詳しくは市長公室までお問い合わせください。

問い合わせ先

市長公室広報交流係
☎ 0968 (25) 7252



イラストレーター

佐藤 厚子さん



1_ 一日一枚絵は「絶景や特別なものではなく、その日に出会った最も描きたいものを選んで描いています」2_ 中央公民館で月に2回、植物画会講座を開催中 3_ ポストカードやブローチも製作 ※詳細や問い合わせはフェイスブックのアカウント「Atelier Clip」まで